

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月5日現在

機関番号：32675

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K17238

研究課題名(和文) 学歴としての専門学校の効果とその「埋め込み」に関する計量社会学的研究

研究課題名(英文) A quantitative study of the effect of Senmon Gakko on status attainment considering social embeddedness

研究代表者

多喜 弘文(TAKI, Hirofumi)

法政大学・社会学部・准教授

研究者番号：20634033

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、これまで十分に注目されてこなかった学歴としての専修学校専門課程(以下、専門学校)の効果を日本的な文脈への「埋め込み」を考慮しつつ計量的に検討した。総務省が実施する基幹統計「就業構造基本調査」の2012年度版、2013年に実施されたESSM調査、2015年に実施されたSSM調査などを用いた計量分析の結果、専門学校学歴は男性よりも女性において高校学歴と比べた場合の賃金への効果が大きいこと、90年代前半を境に専門学校の位置づけが男性で変化したこと、女性における専門学校の効果の大きさの背景には、配偶者収入の少なさが関わっている可能性などが明らかにされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は学歴としての専門学校に着目し、性別による違い、分野による違い、時代による違いという相互に関連しあう3点の課題を検討した。高校卒業後に専門学校に進学する生徒が2割に達する現状に比して、学歴としての専門学校の効果に関する実証研究は少なく、本研究は同分野において学術的に重要な貢献を成し遂げたといえる。また、専門学校が職業資格ともっとも密接に関連する学歴である以上、この学歴の検討は日本の雇用や女性にとっての労働を問い直す契機となる上に、近年社会的に注目されている「日本の学校教育における職業的レリヴァンスの欠如」に関する問題を議論する上で必要な論点を新たに提起することができた。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to clarify the effect of Senmon Gakko on status attainment considering institutional context of Japanese society by analyzing micro data of Employment Status Survey, Survey of Education, Social Stratification, and Social Mobility in Japan (ESSM2013) and The national survey of Social Stratification and social Mobility (SSM2015). Based on the analysis of these data, we found that the effect of Senmon Gakko on income is different between male and female, the meaning of Senmon Gakko has been changed for male after the early 1990s, and the strong effect of Senmon Gakko on income for female is related to low spouse's income.

研究分野：社会学

キーワード：社会階層 専門学校 学歴 女性の就業 制度的埋め込み

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

社会階層論や教育社会学において、学歴としての専門学校は十分に検討されてこなかった。たとえば「社会階層と社会移動調査」(SSM 調査)を用いた研究では、学校基本法第一条に定められるいわゆる「正系」の一条校でないこともあり、専門学校卒業者の最終学歴が高校として扱われてきた。専門学校が制度化されたのは1976年であり、大規模社会調査データによる分析に耐えうるだけの卒業者が近年まで十分確保できなかったこともその理由の1つとして考えられる。こうした事情により、学校基本調査などの集計データを用いた間接的な検討(岩木・耳塚1986など)を除き、専門学校に関する計量研究は2000年代に入るまでほとんどおこなわれていなかった。

近年の日本の教育における職業的レリヴァンスの欠如に対する厳しい批判や、高校卒業後に専門学校に進学する生徒が2割に達している現状を鑑みれば、学歴としての専門学校の特徴の効果を明らかにする意義は極めて大きい。こうした状況の中で、個票データを用いて専門学校卒業者の特徴を検討した先駆的な研究として長尾(2008)と濱中(2008)を挙げることができる。これらの研究は、出身階層、進学前の学力、卒業後の到達階層という3つの観点において、専門学校卒業者が高卒学歴保持者と異なる特徴をもつことを明らかにしている。このことは、従来のように専門学校卒を高卒として扱うことが不適切であることを示す。こうした研究の蓄積により、近年は専門学校卒業者を短大卒業者と合わせて「短期高等教育機関卒業者」として扱う研究が増えてきている。

とはいえ、学歴としての専門学校に関する研究はまだ端緒についたばかりであり、十分に明らかになっていないことが多い。とりわけ、性別による違い、分野による違い、時代による違いを解明することが望まれていた。

2. 研究の目的

本研究では、これまで十分に注目されてこなかった学歴としての専修学校専門課程(以下、専門学校)の効果を日本的な文脈への「埋め込み」を考慮しつつ計量的に明らかにする。専門学校は職業資格と密接に関連する学歴であり、この学歴の検討は、仕事が職務として定義されない「日本的雇用」や学校の職業的レリヴァンスの欠如、女性の働き方といった重要なテーマを社会的に問題化することにつながる。

3. 研究の方法

性別や時代ごとの変化に着目しながら、(1)専門学校の「効果」の客観的な解明、(2)専門学校とライフコースの関連の検討、(3)専門学校の分野別検討という3つの方向から検討をおこなう。データとしては、就業構造基本調査、ESSM 調査、SSM 調査などを用いる。

4. 研究成果

総務省が実施する基幹統計「就業構造基本調査」の2012年度版、2013年に実施されたESSM 調査、2015年に実施されたSSM 調査などを用いた計量分析の結果、専門学校学歴は男性よりも女性において高校学歴と比べた場合の効果が大きいこと、90年代前半を境に専門学校の位置づけが男性で変化したこと、女性における専門学校の効果の大きさの背景には、配偶者収入の少なさが関わっている可能性などが明らかにされた。

専門学校が職業資格ともっとも密接に関連する学歴である以上、この学歴の検討は日本の雇用や女性にとっての労働を問い直す契機となる上に、近年社会的に注目されている「日本の学校教育における職業的レリヴァンスの欠如」に関する問題を議論する上で必要な論点を新たに提起することができた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

多喜弘文, 2019, 「既婚女性の就業選択と専門学校学歴 就業構造基本調査の世帯情報を用いた検討」『社会科学研究』69: 31-49.【査読無】

多喜弘文, 2018, 「教育の不平等生成メカニズムと社会的埋め込み ブリーンとゴールドソープのRRAモデルの批判的検討を通じて」『社会志林』64(4): 109-22.【査読無】

多喜弘文, 2018, 「学歴としての専門学校に関する基礎的検討」中澤渉編『2015年SSM 研究報告書 教育』, 57-80.【査読無】

高橋和子・多喜弘文・田辺俊介・李偉, 2017, 「社会学における職業・産業コーディング自動化システムの活用」(技術資料)『自然言語処理』24(1) 135-170.【査読有】

多喜弘文，2016，「学歴としての専門学校の効果とその男女差 就業構造基本調査の
個票データを用いた基礎分析」『社会志林』63（3）：59-78．【査読無】

〔学会発表〕（計9件）

多喜弘文，2019，「専業主婦の特徴とその趨勢に関する検討 就業構造基本調査の個
票データを用いて」第67回数理社会学会大会，立命館大学，3月7日．

多喜弘文，2018，「夫婦学歴の組み合わせと就業パターン 専門学校学歴に着目して」
第66回数理社会学会大会，会津大学，8月31日．

Taki, Hirofumi and Shin Arita, 2018, “Reward Inequalities Caused by Educational
Credentialism in East Asia: A Comparative Analysis Based on PIAAC Data,”
International Sociological Association Research Committee on Social Stratification
(RC28) Conference, Yonsei University, Seoul, South Korea, 27th May.

Taki, Hirofumi, 2018, “The Effect of Education on the Working Lives of Women in
Japan: A Focus on Institutional Embeddedness,” 1st Annual Meeting of
Comparative Social Research Network (CSRN), Kyushu University, 28 January.

多喜弘文，2017，「専門学校学歴の効果における男女差と時代変化 2015SSM 調査デ
ータを用いて」第64回数理社会学会大会，札幌学院大学，9月18日

多喜弘文，2017，「専門学校学歴の効果における男女差の検討 就業構造基本調査の
個票データを用いて」2016年度二次分析研究会 課題公募型研究 成果報告会，東京大
学社会科学研究所，3月17日．

多喜弘文，2016，「職業希望に関する意味世界の計量テキスト分析 中学生と母親パ
ネル調査（JLPS-J）データを用いた分析（7）」第89回日本社会学会，九州大学，10
月8日．

藤原翔・石田賢示・多喜弘文，2016，「現代中学生の成績，進路，将来像 中学生と
母親パネル調査（JLPS-J）第1波調査の結果から」日本教育社会学会第68回大会，
名古屋大学，9月17日．

多喜弘文，2016，「専門学校卒業者の職業経歴」萌芽的セッション、第62回数理社会学
会，金沢大学，8月28日．

〔図書〕（計2件）

多喜弘文，2018，「男女における専門学校進学の意味 『変容モデル』再考」中村高
康・平沢和司・荒牧草平・中澤涉編『教育と社会階層 ESSM 全国調査からみた学
歴・学校・格差』東京大学出版会，67-86．

Taki, Hirofumi, 2018, “Upper Secondary Education in East Asia: A Quantitative Comparison
with Western Countries,” *High School for All in East Asia*, edited by Shinichi Aizawa,
Mei Kagawa, and Jeremy Rappleye, Routledge, 49-70.

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。